

古高取を伝える会



※口径長径15cm 高さ7~9cm
うちがそがま くつちやわん
内ヶ磯窯では沓茶碗が斜めに窯詰めされて焼かれていました。

古高取とは、陶芸史上では、宅間窯・内ヶ磯窯・山田窯で焼かれた焼き物を称します。

「古高取を伝える会」事務局
〒822-0026 福岡県直方市津田町7-14
めがねステージ2F ギャラリーアッシュ
TEL 0949-23-1311または090-4511-7879 FAX 0949-23-1312
URL <http://www.takatori.org/> MAIL contact@takatori.org

未来へつなげよう古高取

高取焼は、福岡県直方市に所在する内ヶ磯窯跡の発掘調査によって、作品に唐津焼や備前焼そして瀬戸焼・美濃焼などと同じ形・技術があることが分かってきました。このことから、四〇〇年前、福智山麓は朝鮮の陶工だけではなく、日本各地から陶工が集まる「陶芸先進地」であったとも思われます。また、これまで産地が特定できず萩焼や唐津焼・上野焼と見なされていた名品の多くが、実は内ヶ磯窯で焼かれた高取焼であることも判明し、高取焼の再評価にはめざましいものがあります。

ところが、このような直方の宝が、意外と地元には知られていないのが実情です。直方発祥の、筑前国焼高取焼は、今日の私たちの生活の中で欠かすことのできない釉薬の掛かったやきものの成立や位置づけだけでなく、日本のやきもの歴史をいまだ整理するために極めて重要な示唆を与えてくれています。このすばらしい文化遺産を後世の人たちに遺し、伝えていくことは、現代に生きる私たち直方市民の大切な課題ではないでしょうか。

「古高取を伝える会」

現在の内ヶ磯窯跡（福智山ダム）

現在、内ヶ磯窯跡は、福智山ダムの湖底に眠っていますが、ダムの寿命が終わった後、再び人の目に触れることでしょう。その時は更に過去の文化や歴史として伝えられ、きっと直方の宝として輝くことでしょう。



内ヶ磯窯跡

内ヶ磯窯は、全長46.5mにも及び開窯当時日本独自の最新式・最大級の半地下式連房階段状登り窯でした。

昭和と平成の二回の広範囲の発掘調査によって、この巨大な内ヶ磯窯は播鉢、壺、甕、皿、鉢など大多数の一般陶器と、その他に茶の湯で使用される陶器を焼いていたことが、明らかとなりました。

※（昭和五十四年、五十六年 直方市教育委員会主導、平成七年、十一年 福岡県教育委員会主導）



高取焼の概略

天下を統一した豊臣秀吉は、西暦一五九二年から九八八年にかけ二度にわたり、朝鮮半島へ出兵しました。これを『文禄・慶長の役』と言います。

高取焼は、西暦一六〇六年、福岡藩主黒田長政が朝鮮人陶工八山に命じ、鷹取山の永満寺・宅間(現在の直方市永満寺宅間)に窯を築かせたときが始まりとされています。(※貝原益軒の『筑前国統風土記』に記載。山の名は「鷹取」、焼物は「高取」の字をあてています。)

その後、窯場は頓野の内ヶ磯(現在の直方市頓野内ヶ磯)に移り、お茶の世界では知られた名品を数多く作りしました。

更にその後の窯場は、山田、白旗山、小石原、西新など福岡藩内を転々とし、明治を迎え御用窯としての役目を終えました。

このため高取焼は、現在でも福岡県内の数ヶ所の窯で連綿と焼かれています。

高取焼の変遷

はありません。

一、永満寺・宅間窯

慶長十一年(一六〇六)、高取焼の最初の窯は、福岡藩主黒田長政が、朝鮮人陶工八山に命じ、家臣の手塚水雪の居城鷹取城(初代藩主母里太兵衛)の麓の永満寺宅間(直方市永満寺宅間)に開かせました。

寛永元年(一六二四)、二代藩主黒田忠之は、八山の子八郎右衛門の朝鮮帰国願いに激怒し、八山ら朝鮮陶工達を内ヶ磯窯から山田村(現在の嘉麻市)に蟄居させたとされています。そのため山田村に築かれた窯は御用窯では無く、日用の雑器が多く焼かれていました。

二、内ヶ磯窯

慶長十九年(一六一四)、窯は鷹取山の北麓の内ヶ磯(直方市頓野内ヶ磯釜の尾)に移転しました。

寛永七年(一六三〇)、窯は白旗山(現在の飯塚市)に築かれました。この頃、八山とその長男八郎右衛門は蟄居がとかれ將軍家の茶道師範である小堀遠州の指導を受けました。これ以後、「遠州高取」として知られ、繊細で優美な作品を残しています。


注目すべきは開窯当時、茶の湯の世界で名声の高かった古田織部の好みの沓茶碗などが焼かれていたことです。開窯については定かでない。

現在、窯は小石原、西新、直方など福岡県内の数ヶ所にあり、様々な高取焼が連綿と焼かれています。

宅間窯跡

宅間窯は全長16.6mの割竹型の登り窯で、当時の朝鮮半島の技術を用いて作られた高取焼の最初の窯です。

発掘調査によって、日常陶器を中心に焼いていたことが明らかとなりました。



直方市提供

三、山田窯

寛永元年(一六二四)、二代藩主黒田忠之は、八山の子八郎右衛門の朝鮮帰国願いに激怒し、八山ら朝鮮陶工達を内ヶ磯窯から山田村(現在の嘉麻市)に蟄居させたとされています。そのため山田村に築かれた窯は御用窯では無く、日用の雑器が多く焼かれていました。

四、白旗山窯

寛永七年(一六三〇)、窯は白旗山(現在の飯塚市)に築かれました。この頃、八山とその長男八郎右衛門は蟄居がとかれ將軍家の茶道師範である小堀遠州の指導を受けました。これ以後、「遠州高取」として知られ、繊細で優美な作品を残しています。

五、小石原と西新の高取焼

寛文五年(一六六五)、窯は小石原村の鼓(現在の朝倉郡東峰村)に移転しました。またその後は藩主の御用窯として福岡城下の西新(現在の福岡市)にも窯が開かれ、二カ所で操業されています。(一六八八年大鋸谷(一七〇八年荒戸新町、一七一六年東皿山、一七四一年西皿山)に開窯し細分化しました。)

そして、明治の廃藩置県により、福岡藩の御用窯高取焼は廃窯となりました。

六、現在の高取焼

現在、窯は小石原、西新、直方など福岡県内の数ヶ所にあり、様々な高取焼が連綿と焼かれています。

のおがた 直方で生まれた高取焼

以下は、直方の内ヶ磯窯で生まれた高取焼です。これらの作品は内ヶ磯窯発掘調査以前は、唐津焼、上野焼、萩焼とされていましたが、発掘調査の結果高取焼と確認されました。この他にも斬新なデザインの作品がたくさんあります。



かけわけゆわりこうだいくつちやわん
掛分釉割高台沓茶碗
(旧唐津焼) 個人所蔵



みみつしほうみずさし
耳付四方水指
(旧上野焼)
田中丸コレクション所蔵



左側の写真
まだらゆすかしもんりんかばち
斑釉透文輪花鉢
(旧萩焼) 個人所蔵

福岡県史 文化資料編 筑前高取焼より



古高取展示紹介(出土品)
直方中央公民館2F 直方市津田町7-20 TEL 0949-25-2241
直方市美術館別館(アートスペース谷尾) 直方市古町10-20 TEL 0949-22-0038
※発掘品の展示が見学出来ます。

~歴史や文化を未来へつなげる~
ご入会希望の方は、事務局までお問い合わせください。